

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩心会 発行

59年5月現在 会員数  
逗子地区 156名  
葉山地区 303名  
大船地区 66名  
(合計) (525名)

59年5月号 (142号)  
5月発行 者 萃  
根岸 岳 集  
編 村 愛 岳

## 吟声の聞えてくる近くに

堀内支部D 板橋 雅風

わが庵は相模の海を池にして

富士大島を庭の築山

この風光明媚な葉山の風景を眼のあたりに見、そして大きな声で詩を吟ずる事のできる喜びと併せて感謝している昨今です。

あれは五十年九月：西雲の美しいバスの中でした。先輩の鈴木深山さんから、今夜詩吟・詩舞があるの、とても楽しいからこない？とお誘いをうけ、何も分らぬまゝにご一緒したのが、吟との初めての出会いでした。葉山在住十年間でしたが、子供も成人し、外出も少なく、吟が行なわれている事もそれまで全く知りませんでした。

会員の皆様の熱心なお稽古風景を無我夢中で拝聴させて頂き、深く感銘したことを今でも憶えています。後に鈴木さんに入会をすゝめられ、十月に意を決してお仲間に入れていただきました。最初は声も出ず、恥ずかしさのあまり、泣きたくなる思いもしましたが、教場の雰囲気もよく、先生はじめ諸先輩の暖かいお気持ちに支えられ、十年近い年月が過ぎました。

昨年は奥伝を頂き、意を新たにしております。

ます。同好の皆様とめぐり逢えたこと、温習会のことなど、様々な事が去来します。ある時は吟行会にも参加させて頂き、木村岳風先生の墓前で「わが墓は」を合吟し感動したこと、又伊勢神宮に詣で、志摩の美しい海に遊んだことなど、思い出のアルバムの一頁を飾ることもできました。

ペンを休めて爽やかな窓外に目をやると、中村先生の庭の花桃が今を盛りと咲き誇り、たくさんの鯉のぼりが青空に泳いでいるのが見えます。そして時折吟声も聞えてきます。そんな近くに一昨年居を構えることになったのです。そして一生のおつき合いともなりました。これも詩吟のとりもつ御縁といえましょう。

先生の熱心な御指導に伝えられるよう、健康の許す限り、同好の皆様と頑張りたいと思います。諸先生、諸先輩の御指導、御鞭撻を今後ともお願い申し上げます。

## 予選会に出場

4月22日平塚農業会館に於て、第10回全国選抜者吟道大会の神奈川・静岡地区予選会に左記の方々が出場し健闘されました。

上村象風 立沢御風 小森香風  
阿部葵風 松井正山 由井良山

◎常任理事会ひらかる

とき・59年4月20日(金)6時30分より

ところ・逗子会館

議題

◇58年度決算・59年度予算案

◇役員改選の件

◇理事会開催の件

◇その他

(審査課題について)

高段者を含め、審査課題は60年末まで、現在通りの課題となります。

◎理事会開催のお知らせ

とき・59年5月19日(土)6時30分より

ところ・桜山下会館

(理事の定数一覧表)

支部名	理事定数	支部名	理事定数
逗子A	2	甬訪	1
逗子B	1	山口	1
桜山A	1	坂の	1
桜山B	1	早警	1
沼山	2	原山	2
山ノ根	1	木山	1
山詠	1	山松	1
山月	1	船A	1
銀葉	4	船B	2
真堀	1	大和	1
堀長	1	大松	1
一色A	2	戸	1
一色B	2		
下山	1		
(合計 37名)			

陽春の四国一周の旅と

空海

(春瀾漫のコース)



四月九日、四泊五日の念願の陽春四国一周の旅に出た。長い冬がようやく去って、桜の開花が私達の歩調にあわせるかのようには咲きはじめ、お天気にも恵まれた楽しい旅でした。四国の玄関口高松に一步をふみいれ、まず最初に瀬戸内海を一望に見渡す。遠い昔源平の古戦場であった屋島、紫雲山をバックに、松と湧水と石とを巧みに配した天下の名園栗林公園、こびら船々の俚謡で知られる金刀比羅宮、日本最古の道後温泉、加藤嘉明の築城になる松山城、黒潮の海光る四国最南端の足摺岬、月の名所の桂浜、怒濤逆まく室戸の岬、そして最後は「おどらにゃ損々」の徳島に入り、鳴戸のうず潮をみながら帰路につき、春瀾漫の四国を満喫することができました。

(弘法大師入定千五百年)

今年には弘法大師(空海)入定千五十年に当り、この五月に高野山に於て盛大な御遠忌記念行事が行なわれるという時、讃岐の屋島寺、伊予の石手寺、土佐の金剛福寺、阿波の薬王寺がコースにくまれています。お札所詣りができました。そして帰って間も

なく映画「空海」をもみる機会を得ました。まさに弘法様のお導き：なんて結びつけ、道行くお遍路さんの姿を思い浮かべながら、ひたすら修業に打込み、見えるものはたゞ空と海のみ：ということからその名があるという「空海」について歴史をひもとき、まとめることにいたしました。(註：( )内は映画「空海」での役者名)

(生い立ち)

空海(北大路欣也)は宝亀五年(七七四)讃岐の名門佐伯直田公(西村晃)の三男として生まれた。今の香川県善通寺のあたりで、何不自由なく育ち、幼い頃より学問の道に志し、ことに当時一流の学者であった母方の伯父、阿刀大足(森繁久弥)の薫陶を受けたという。

(人生とは何か)

空海はちょっと比較にする人がない位の万能的な天才だったといわれる。当時京都には中央のエリート官僚を養成するための大学があり、郷里の親や親族は、空海が官吏として、出世コースを進んでほしいと思っていたが、彼自身はその段階で非常に悩み、人生とは何かを考え、大学を中途退学し、出世街道から離れて、人間が生きていくということはどういふことか考え直すところだったという。

(きびしい修業)

空海の生涯で大学をやめたあとのおよそ十年、その二十代はほとんど空白、謎の時代とされる。たゞ四国、近畿あたりの山々をわたり歩いてきびしい修業と学問の道に励んだ事が伝えられ、山あいの岩窟などに閉じこもり、彼は馮かれたように仏教の教典を読みあさったらしく、ことに峻険な阿波大滝峯、怒瀾の土佐室戸岬での、彼のきびしい修業は有名である。

(唐へ渡る)

三十一歳の時彼は唐への留学生に選ばれた。時を同じくして、のちに天台宗を開いた最澄(加藤剛)も唐へ渡った。当時中国へ渡るとは命がけの冒険であった。空海を乗せた遣唐船も、途中暴風雨にあい、日本からはるばる四干料、七ヶ月の旅路を終えて、ついに唐の都長安に達した。広く東西文化の交流が行なわれた当時の長安は、まさに世界文化の中心地であった。こゝで空海は貧欲なまでにあらゆるものを吸収したのである。仏教はもちろん、美術、工芸、最近の科学技術、医学、すべてを彼は学びとった。それを可能にしたのは彼の天才的な語学力であった。日本にいる時から、すでに中国語に堪能であった彼は、長安でさらにインド語も覚えたという。そして唐に

渡ってから二年後、彼は世界最高の文化の粋を祖国に持ち帰ったのである。いわば巨大な空海コレクションとも言えるその唐からの諸来品は、仏像・仏具・仏典をはじめ膨大な量であった。その多くは現在京都の東寺に保存されている。

(密教Ⅱ真言宗の父)

奈良から平安に遷都しておよそ十年後、唐から帰ってきた空海は、しばらく九州にとどまるが、やがて嵯峨天皇(西郷輝彦)に認められるところとなり、京都に上り高雄の神護寺、さらには東寺を中心に精神的な活動を展開することになる。今も京都駅の近くに壮大な伽藍を誇る東寺、それは奈良平城京の東大寺に匹敵する、新しい都、平安京のシンボルでもあった。朝廷より鎮護国家の根本道場として東寺を預った空海の名は全国に広がり、人々の崇拜するところとなった。いままも東寺は、空海が日本にもたらした密教文化の宝庫である。

(旺盛な活動力)

空海がすぐれた書家であったことは、だれしも知るところである。彼は他の人に見られない書体を生み出し、空海という人の才能とか性格とかが「書」の中にも如実に現われているといえよう。

(弘法筆を選ばず！)

「弘法大師が杖を立てた所に、池が生じて田を潤した」：そうした類の伝説はきわめて多い。彼の旺盛な活動力は、香川県に今も残る満濃池に代表される。巨大なこの池の修築工事は、空海の数ある事績の中でも確かな史実として伝えられる代表的なものである。又教育面でも発揮され、現在東寺の北側に種智院大学というのがあり、庶民に開放された日本最初の私立大学であり、総合大学である。

(大師信仰)

幾重にも連なる紀州の山並み、その奥深く、高さ一キロのところ突然開けた盆地高野山：京の町の雑踏を離れて、空海は最後にこの地にこもった。今、この高野山には百幾つもの寺がある。空海の教えを学んで、多くの僧侶たちが修行に励む真言密教の聖地である。承和二年(八三五)空海入定、六十二歳。僧侶の死を普通は入滅、もしくは入寂といいますが、空海の場合だけは特に入定という。空海は入定後八十七年めに弘法大師の号を与えられる。三月二十一日は、弘法大師の命日、今もこの日にちなんで、毎月二十一日は「お大師様」の日として多くの人が寺に詣る。四国八十八ヶ所お遍路参りをはじめ、大師信仰は、今も各地に根強く生きています。

(愛岳)

## 練吟メモ

◇朗詠には、「新体詩の朗詠」と、「新体詩風朗詠」とがあります。新体詩風朗詠とは、新体詩以外の詩文を、新体詩と同様の吟法で朗詠することです。

◇詩題を旧教本で区分すると（小諸なる古城のほとり）（星落秋風五丈原）（からまつ）（山のあなた）などはもちろん新体詩ですが「富士の山を詠める」「奥の細道」「自然と人生」「雨ニモ負ケズ」などは新体詩ではありません。説明は省略。

◇新体詩という語は、明治十五年に「新体詩抄」が発刊されたのが始まりとされています。新体詩は、西洋詩に影響されて発生した詩形で、文語体の七五または五七調の定型律です。日本に新しい詩の形を開いたもので、その文学的意義は大きいとされています。

◇明治三十年前後には、詩人も多数輩出しました。そして最も高い標準にあったのが島崎藤村であり、彼において新しい詩は、内容、形式ともに芸術的に完成したと評価されました。しかしその新体詩も、明治四十年代には名実ともに消滅してしまいました。そして、大正以後の詩壇は「自由詩」と

ってかわられ、口語で自由律のいわゆる現代詩に完全に移行してしまいました。

◇現在の吟詠界は、時代に関係なく漢詩、短歌、俳句以外の朗詠に適する韻文歌謡までも便宜的に「新体詩」に含めているようです。ですから、これまで述べた新体詩より広義に扱い、新体詩風に朗詠できるものは一応「新体詩」として扱う、ということであると思います。

◇三冊目の新教本「朗詠集」は、明治以降の詩を総括して「近代詩」と呼称し、付けた詩題は新体詩と自由詩を掲載しています。参考にして下さい。

### (移籍)

236 杉本恵山 逗子Bより桜山Aへ

### (入会)

629 鈴木チヅ子 葉山町上山口一四五四

630 中山 潤 横須賀市秋谷二一五―三七

631 中山俊江 (電)〇四六八―五六―四六六一

632 荒井シズエ 葉山町堀内一四七三

633 高橋松枝 葉山町一色一九二〇

(電)〇四六八―七五―二四五六

(電)〇四六八―七五―二四五六

(電)〇四六八―七五―二四五六

(電)〇四六八―七五―二四五六

(電)〇四六八―七五―二四五六

(電)〇四六八―七五―二四五六

634 角田たみ代 葉山町一色二一三五

635 角田久江 葉山町一色一九九六

636 永島年子 葉山町堀内六六六

637 長谷川広子 葉山町一色一九九二

638 守谷信子 葉山町一色一八六〇

639 平 たか 逗子市逗子五―五―一〇二一

640 土井貞子 逗子市池子三一―五―一五

641 藤村千織 逗子市桜山六一―九―一三

642 宮田さく 逗子市逗子四―一―一七

643 山下八志真 逗子市池子三一―一―一

644 小林紫風(再) 逗子市山ノ根二―一―一六

514 太田翠山(山ノ根)

359 多田裕山(一色B)

281 小林栄泉(星山)

189 畑中亀泉(大船B)

277 小島郁泉(桜山B)

282 小高真山(山ノ根)

448 新明ヨシ(一色A)

527 沼田芳蔵(下山口)

(退会)

(退会)

(退会)

(退会)

(退会)

(退会)

(退会)

(退会)

(退会)

(退会)

(退会)